

学会紹介：日本粘土学会

日本粘土学会常務委員長

黒田 一幸(早稲田大学理工学部)

1. 日本粘土学会

粘土は鉄鋼、土木、土壌、化学工業等様々な分野で広く利用されている。本学会（現会長：佐藤満雄群馬大学工学部教授）は、40年以上の歴史をもち、粘土について学術、産業の両面での貢献を行っている。学会会則による本学会の使命は、粘土およびこれに関連ある物質の学理応用の研究及びその普及と交流促進にあり、国内外の情報・資料交換、成果の発表・討論、応用化の促進となっている。学術会議会員の候補者や推薦人を少ないながらも選出できる学術研究登録団体でもある。

学会には、粘土に関わる多様な分野からの会員が参加しており、6部門に区分されている（1地球科学、2資源、3無機材料、4化学・物理、5土壌・肥料、6建設・農業土木）。学会創立当初より学際的色彩豊かな学会であったといえよう。会員は企業単位で参加する賛助会員（現在55社が参加；年会費2～4万円）と個人正会員（約500名）、学生会員からなる。本学会の特色はなんといっても会員相互の暖かな交流であり、この雰囲気は世界の粘土研究者に共通で、国際粘土研究連合（A I P E A）が組織されており、4年に1度の国際粘土会議（本年6月に第11回会議がオタワで開催予定）も大変なごやかな中で行われている。

2. 学会の活動

粘土科学討論会、見学会を毎年行っている。粘土科学討論会では、毎年100件近い報告がなされ、活況を呈している。近年の環境関連からも注目を集めている。また学会内に研究グループを組織してベントナイトの利用や試験法研究グループ、セピオライト研究グループが活動している。

本学会は2種類の学術雑誌「粘土科学」（年4回発行）及び英文学術誌「Clay Science」（年2回発行）を刊行し、世界の粘土科学の発展に貢献している。事実、日本の粘土研究のレベルは高く、アメリカ、ヨーロッパ、日本が三極を形成しているといつてよかろう。学会の記念出版事業として「粘土ハンドブック（第2版）」が技報堂から出版されているが、世界に類書のない日本粘土学会ならではの成果である。日常の業務は、評議員会、常務委員会を随時開催し企画、立案、対応を行い、年1回の総会で報告・決定している。上記A I P E Aには国際協力委員が対応している。

3. 日本粘土学会参考資料

研究上の標準試料を整備することは、学問の性格上学会として必要な事業であるとの認識から、粘土鉱物試料の頒布を行っており、研究レベルの少量のサンプル購入希望に対応できる体制を整えている。

4. 事務局

事務局は下記に設置してあるので、入会、試料購入他の問い合わせは下記宛ご照会願いたい。

〒700 岡山県倉敷市川西町11-30 加計国際学術センター内

日本粘土学会 TEL. 086-423-1611 FAX. 086-427-5284